

豊岡杞柳細工

【産地組合】兵庫県杞柳製品協同組合

（産地紹介）

杞柳細工の始まりは1世紀の初めまで遡り、2000年の歴史を持っています。奈良正倉院御物の中には、今も「但馬国産柳箱」が残されています。

円山川の荒地に生えるコリヤナギで籠を編むことから始まった杞柳細工は、豊岡が城下町となった時期に産業としての形が整いました。江戸時代には、藩主が杞柳細工を保護奨励して専売制度を確立したことから、豊岡の製品が世に知られるようになりました。



自然木の味わい、強くしなやかな風合い、柔らかさと粘りを生かしながら、職人の手によって一つ一つ編み上げていくカゴの技法には、縄編み6種類、側編み（がわあみ）33種類、縁組（ふちぐみ）18種類があり、製作する人の意図によって様々な作品が出来上がります。

柳こうりから大正バスケット、買物かごからおしゃれバッグと時代と共にさまざまなものをつくってきました。今は伝統の技を活かし、草木染を取り入れ、デザインのすぐれた個性ある一品づくりに挑戦しています。

（トピック）

- ・ 豊岡市赤石の玄武洞ミュージアム3階に、平成18年1月25日「豊岡杞柳細工ミュージアム」がオープンしました。江戸時代から現代までの様々な杞柳細工数百点を時代順に並べ、当時の写真や解説で、戦前・戦後の豊岡かばんの歩みも紹介しています。